

四谷の

千枚田だより



第176号



横浜ゴム新城工場新入社員研修



四月四日、桜吹雪の絶好調なお日に恵まれた中、横浜ゴム新入・幹部社員二十三人の研修が「四谷の千枚田」を会場に行われた。

九時、研修開始にあたって会長は「従業員約千五百人の大会社で新規採用十二名は非常に少なく感じる。多くの会社では三割が辞めることを想定していると聞くが、貴社はそれだけ安定している証拠でもある。人生、長い間には嫌なことも多々あるが将来を見据え、頑張ってください。」

穂積新城市長から「皆さんの若いエネルギーが会社の発展に、また、新城市に幸せな家庭を築いて頂くことを願います。まずは、就職おめでとうございます。」と挨拶がなされた。

会長の引率で千枚田の保全管理の大変さ、多様性に富んだ自然、歴史文化、また、横浜ゴムが取り組んでいる生物多様性「ビオトープ」の実践活動の効果などを説きながらふれあい広場に到着。広場では景観清掃や記念植樹を行った。昼食は保存会が用意した湧水、天日干しの「ミネアサヒ」のご飯と捕獲した有害獣イノシシの「シシ汁」を振る舞った。また、「孫のような子供たちが親元を離れて暮らすのが可哀そ

うで、なんだか、涙が出ちゃうだね」と、心づくしに、今では、幻となった鈴原糯ともぐさの「あんころ餅」もつくって食べてもらった。

交流会は松下誠の進行で、始めに愛知県新城設楽農林水産事務所建設課竹内課長から「ふるさと水と土ふれあい事業」において作業道等各種施設整備や補修、また、灯そう千枚田など各種イベントにおける資材支援を行っている等の挨拶に続き、新入社員の自己紹介と抱負が語られた。入社して二日目と研修期間も少なく、例年と比較すると社員としての心構え、責務、自己PRが乏しかったかな？との思いが感じた。研修終了時には見違えるほど成長していることを望みたい。





真心のこもった草餅

幹部、スタッフは会社を担う、担ってきた姿が浮き彫りされた言葉

を新社員にはなむけた。
 研修最後は千枚田入口に社員、行政(県新城設楽農林水産事務所建設課四名、新城市鳳来総合支所地域課三名)、保存会(十名)の総勢四十名が集結、横浜ゴムを代表して藤沢さんから十八歳から叩き上げで、幾度となく茨の道を歩んだ経験談で新人社員を叱咤激励、研修でお世話になった行政、保存会に丁寧なお礼の言葉があった。べに高橋庄一(顧問)から「十五才から千枚田の百姓をしている。頭の毛は生えそろわないが、八十五歳になっても健康だ。守らにやあ、ならんでのん・。」と結び、全員で頑張れヨくと手を振って見送った。

自立施工侵入防止柵設置効果

あまりにも有名になってしまった四谷の千枚田もニホンジカやイノシシなどの獣害被害が頻発、昨年は、ほぼ全戸の田んぼが荒らされた。たまたま入らない田んぼがあっても「よつぼど、米が不味いすらあ〜」とまでからかわれる始末、また、畑においても薩摩芋も大根も菜っ葉も全部きれいに洗われ、値札のついたスーパーものに依存している。

害獣侵入防止柵の設置は人目にも悪く、無粋であることを耕作者は懸念、我慢に我慢を重ねてきたが、千枚田の美観を守るか、田んぼをやるか切羽詰まった状況までに陥った。そこで、耕作者に呼びかけ、多くの同意者を得て行政に要望。行政、協議会も大きな理解を示され、平成二十九年度自立施工侵入防止柵設置が採択された。耕作者は意欲に燃え、昨年の十二月二十五日からこの二月二十日までに防止柵の設置は完了した。設置したものの、外野から「何処のどこでは、どうのこうの…」と揶揄が小耳に飛び込む。我慢ガマン

三月二十三日、設置された防止柵に行き場を失ったニホンジカ(胎児あり)を檻で捕獲、続いて四月四日、

イノシシ三頭(成獣)を捕獲、両者とも侵入防止柵設置協で、その効果は絶大で、疑う余地もない大きな成果であり、久々に溜飲が下がった。



第四回 奥三河パワートレイル

開催期日 四月二十二日
 エントリー 七〇四名

四谷の千枚田「ふれあい広場」がエイドステーションになり、保存会が先達として連谷地域の皆さんに呼びかけを行い「シシ汁・おにぎり」でおもてなしを行います。大勢のご協力、応援をお願いいたします。

保存会役員会

四月十三日(金)、連谷会館
 議題 奥三河パワートレイル協力
 について その他

看板

市立鳳来寺小学校五年生がアイデアいっぱい看板を立てました。



今後の予定

・五月十日、豊橋調理製菓専門学校
 の田植え

行 平成三十年四月二十日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 発 文 責 小山舜二